

[2013]九州大学情報統括本部年報 : 2013年度

<https://doi.org/10.15017/1559839>

出版情報 : 九州大学情報統括本部年報. 2013, pp.1-, 2014. 九州大学情報統括本部
バージョン :
権利関係 :



第14章 図書館連携事業

14.1 図書館システム支援

(1) 学務及び人事データとの連携の調整

認証基盤事業室及び学務部と調整し、図書館システムとの連携データ項目追加やデータ取り込みフロー改善など仕様の変更を行いました。また、全学共通 ID 管理システム更新に伴い導入された学生用 SSO-KID について、図書館利用者マスタのキー項目として保持する運用を開始しました。このことにより内部進学者の貸出履歴の引継ぎが可能となり、学生の利便性が向上しただけでなく、業務の効率化を図ることが可能となりました。

(2) 貸出管理端末の入替に伴う IC カード認証アプリケーションの調整

平成 25 年度 12 月更新の貸出管理端末に IC カード認証アプリケーションを導入し図書館業務システムとの連携調整を行いました。

(3) 図書購入フローの見直しに伴う財務会計システムとの調整

平成 26 年度の財務会計システム更新と合わせた図書購入フローの高度化が実施できるよう、調整を図りました。

(4) サーバ群の設置場所やデータのバックアップ環境の調整

サーバ群について、平成 25 年 8 月に中央図書館へ仮設置し、平成 26 年 3 月伊都図書館免震サーバ室へ移設しました。さらに、バックアップ装置を筑紫図書館に設置し、遠隔バックアップ環境の整備及び運用を支援しました。

14.2 電子コンテンツサービス支援

(1) Shibboleth 認証サービスの拡大

NII の学術認証運営委員会図書館系サービス作業部会に当事業室員が委員として参加し、国内外の SP との新たな連携に向け交渉を進め、サービスの拡大に協力しました。

平成 25 年度、電子ジャーナルや文献データベース等の学術情報系の主要 SP について、九大構成員の Shibboleth 認証によるログイン回数は参考資料 1 の表 1 のとおりとなりました。(参考資料 1、表 1)

(2) e リソース利用環境の安定運用

EZproxy サーバを附属図書館の保有するハードウェア環境に移行し、今後 4 年間の持続運用を可能にしました。また、サーバ証明書の更新作業を行うとともに、リモートアクセス可能な e リソースについて 15 件の追加及び変更作業を行いました。

平成 25 年度、EZproxy によるリモートアクセス件数は参考資料 1 のグラフ 1 のとおりとなりました。(参考資料 1、グラフ 1)

(3) 不正利用への対応

電子ジャーナルの不正利用等による出版社からのアクセス停止措置が 4 件発生しました。これらを受け、支線 LAN 管理者を通じて調査した利用状況を出版社へ報告し、アクセス制限の解除を行いました。

(4) ウェブ文献管理ツールの提供

平成 24 年度に引き続きウェブ文献管理ツール RefWorks を提供し、平成 25 年度は参考資料 1 のグラフ 2 のとおり利用がありました。

RefWorks を含めた文献管理ツールの比較と活用法について、箱崎、伊都、病院地区で計 11 回の「文献整理法」講習会を実施し、203 名の参加者を集めました。(参考資料 1、表 2・グラフ 2)

14.3 機関リポジトリ支援サービス

1. 新しい図書館システム内で統合的にメタデータを管理するため、メタデータスキーマの策定を実施しました。特に、学位論文のメタデータに関しては、QIR 内からデータ抽出し、メタデータスキーマを別途作成するとともに、今年度から開始する博士論文のインターネット公開に備えデータ修正を実施しました。さらに、新システムで著者典拠を管理できるようにするため、移行データの著者名に対し図書館の利用者 ID を付与しました。
2. 平成 22 年度から 24 年度までに附属図書館にて開発した、機関リポジトリの普及とサステイナビリティ向上を目標としたシステム開発について、試験的な運用の技術的な支援を行いました。
3. QIR の図書館システムへの統合に伴い研究者情報での紐付け機能がなくなるため、既存の紐付け情報の維持と今後の紐付けの実現について、大学評価情報室との協力を行いました。

14.4 図書館での教育支援サービス

1. 附属図書館が留学生センターや部局とともに実施した新入留学生向け図書館ガイダンスで、教育情報システムのアカウントの有効化及び教育情報サービスの利用補助を行いました。
2. 図書館学習サポーター制度が伊都地区にも導入され、教育情報サービスに関連した学習相談への支援を拡大しました。平成 25 年度の箱崎、伊都、病院地区における附属図書館への情報統括本部提供のサービスに関する問い合わせの件数は 1789 件でしたが、そのうち 167 件を箱崎、伊都地区の学習サポーターが対応しました。

3. 平成 26 年 3 月に行われた教育情報システムのリプレイスに伴い、附属図書館内の iMac 端末の台数調整および再配置を行いました。また、ゲストアカウント発行システムについて、教育情報システムサーバの更新に合わせてプログラムを変更し、ゲストアカウントサービスを継続しました。その他、新端末で DVD を視聴する学生への対応のため、外付け DVD ドライブの貸出サービスを開始しました。
4. 学生の PC 必携化に伴い、個人の PC が最大限に活用できるよう、附属図書館内に設置されているネットワークプリンタについて、無線 LAN からの出力が可能な環境を整備しました。また、学生の情報リテラシー向上を目的とした電子書籍の提供を開始しました。

各種統計

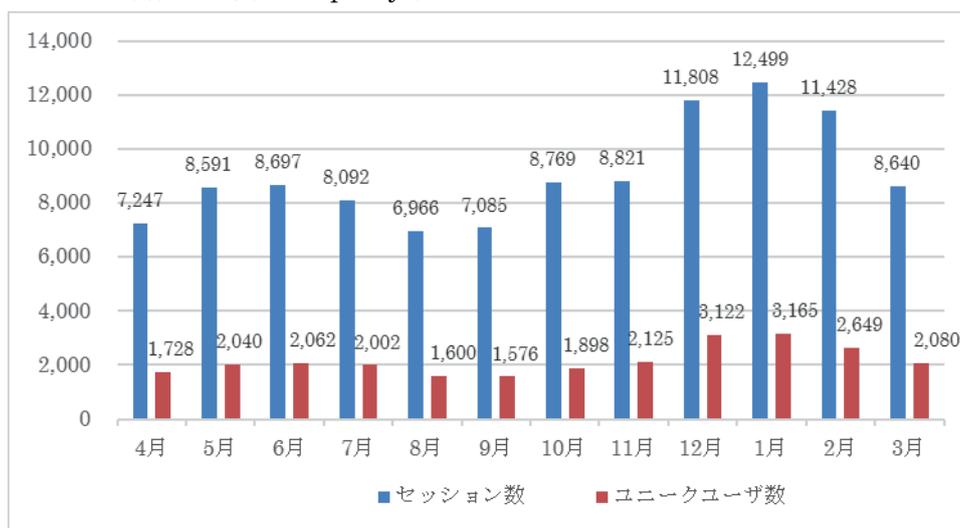
表 1 : 平成 25 年度 学術情報系の主要 SP Shibboleth 認証ログイン回数

SP 名	ログイン回数
CiNii	5,989
Web of Science (Thomson Reuters)	3,188
Science Direct (Elsevier)	2,467
RefWorks	1,662
Metapress	110

表 2 : 平成 25 年度 文献管理ツールに関する講習会開催実績

開催日	開催地区	参加者数
2013/7/3	伊都	6
2013/7/8	箱崎	12
2013/7/11	病院	37
2013/11/20	箱崎	16
2013/11/21	箱崎	5
2013/11/21	箱崎	3
2013/11/22	病院	28
2013/11/22	病院	23
2013/11/22	病院	49
2013/12/12	箱崎	8
2014/1/30	病院	16

グラフ 1 : 平成 25 年度 EZproxy 利用統計



グラフ 2 : 平成 25 年度 RefWorks 利用統計

